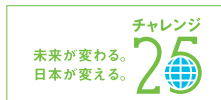


UBITEQ
UBIQUITOUS TECHNOLOGY

UBITEQ
UBIQUITOUS TECHNOLOGY

第38期ビジネスレポート
2013年7月1日～2013年12月31日(第2四半期)



ユビテックはチャレンジ25
キャンペーンに参加しています。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。



環境保全のため、植物油インキとFSC® 認証紙を使用して印刷しています。



証券コード：6662

株式会社ユビテック

当第2四半期までに行った活動についてご紹介させていただきます。




Topics 1

ユビテック協賛「Live E! プロジェクト 第2回サイエンスコンテスト」開催 ～国立明石工業高等専門学校がユビテック賞受賞～ (9月)

当社協賛「Live E! プロジェクト第2回サイエンスコンテスト」が開催され、国立明石工業高等専門学校の「気象情報を考慮した食品安全性解析」が最優秀賞にあたるユビテック賞を受賞しました。

Live E! プロジェクトは、東京大学大学院の江崎浩教授を主査として2005年に設立され、気象情報や都市活動関連情報等の環境情報の収集・活用を推進しており、当社も設立時より参画しています。高校生や大学生のチームが、Live E! サーバの提供するセンサデータをいかに有効活用して成果を上げたかを競い合う中、天候等の情報をもとに食材の傷みややすさ等を見える化した国立明石工業高等専門学校チームの発表が最も高く評価され、トロフィー、賞状、研究奨励金が授与されました。また、後日当社に来社いただいて受賞内容のプレゼンテーションや勉強会を行い、当社技術者との情報交換の機会も設けました。



Topics 2

高品質な映像体験によりビデオ会議のスタイルが変わる。次世代のクラウド型ビデオ会議サービス「CanSee」Powered by Vidyo を発売 (10月)

「CanSee」Powered by Vidyo は、PCやタブレット端末からでもシンプルでスマートに使い、低コストで導入が可能な新しいクラウド型ビデオ会議サービスです。

従来のビデオ会議システムは、専用のシステム、ネットワークで構成され、多地点接続には高価な専用装置も必要で企業にとってはコストと手間から導入しにくいものではなく、品質も決して満足できるものではありませんでした。「CanSee」Powered by Vidyo はこれらの懸念を取り払い、これまでのビデオ会議とは違う新しい会議コミュニケーションのカタチを創造します。

「CanSee」Powered by Vidyo の主な特長

- 1) クラウド活用により専用機材等の購入は不要、拠点増設も低コスト
- 2) 乱れない映像と音声で臨場感あふれるライブコミュニケーション
- 3) スマホやタブレットからでも高画質、無線環境でも安定通信のモバイル会議を実現




Topics 3

エクシング社の旅館・ホテル、エルダー市場向けカラオケシステム「JOYSOUND FESTA」の開発に協力 (11月)

当社は、株式会社エクシングが販売する旅館・ホテル、エルダー市場向け業務用通信カラオケシステムの一体型モデル「JOYSOUND FESTA」の組込み設計技術等開発に協力しています。

「JOYSOUND FESTA」は、2012年12月に任天堂が日本国内で発売したゲーム機「Wii U™」の本体内蔵ソフトとして開発した「Nintendo×JOYSOUND Wii カラオケU」のシステムをベースに、本ソフトで実現した音・映像のクオリティや「Wii U GamePad」による高い操作性を活かしています。旅館やホテル、今後更なる需要拡大が期待される福祉施設に特化したバリエーション豊富な採点機能やゲーム機能の搭載をはじめ、見て楽しむことができるものに加え、体を動かすことで楽しめるオリジナルのレクリエーションコンテンツを強化した「笑顔・元気・健康」をテーマに生まれたカラオケです。

機器の耐久性や使い勝手の面でも従来の一体型カラオケシステムの機能を大幅に改良した業務用の新モデルで、機動性に優れたセパレート設計の採用により本体をラックから取り外すことができるほか、スムーズな移動を可能とするキャスターや、最大350度まで回転するモニターの搭載により、さまざまな環境、幅広い用途に適用します。また、本体部を着脱可能とし、既設の音響設備にも対応可能です。本製品の開発にあたり、当社はデザイン・製品設計・製品検証・生産体制構築まで設計と生産を一貫して行っています。



ユビキタス技術を磨き、「社会に求められ、人に役立つ」 自社製品開発とサービスの提供を行って参ります。

株主の皆様には格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

第38期も引き続き厳しい事業環境となっておりますが、グループ全体によるローコストオペレーション体制を維持しながら、カーソリューション・環境ソリューションをはじめ、全事業分野において新たな自社製品や自社サービスの開発、新規顧客の開拓を着実に進めております。

新たなオフィスソリューションとして、省エネソリューション「BE GREEN Next (BGN)」のファシリティマネジメント機能を進化させマイクロソフト社のOffice365との連携で会議室利用の効率化を図る管理サービス「ルームコンシェル」を発売しました。BGNと連携させることでワークスタイルに合わせた省エネ化と新たな業務効率向上が可能になります。同じく会議室ソリューションの一つとしてモバイル端末からでも使用可能なクラウド型ビデオ会議サービス「CanSee」Powered by Vidyoの販売を開始し、クラウドを活用したサービスの提供も拡大しております。

また、カーソリューション事業では、簡易車両管理サービス「Be Safe」シリーズの開発を進め、サービス提供を行う予定です。さらに、携帯電話・スマートフォンの評価事業においてもWeb・クラウドサービスの評価、様々な家電との相互接続性検証サービスも開始し、昨年7月に設立しました「沖縄セキュリティ&テストセンター」にて、モバイルをはじめとしたこれらのテスト事業を強化する一方、近年対策が急がれている組み込み系システムの脆弱性、脅威へのセキュリティ評価手法の開発を積極的に進めて参ります。

ユビテックは「人を感じて動く。人にあわせて動く。」ユビキタス技術を駆使することで「自然に出来てしまう、やりたくなる省エネ」を実現する「省エネソリューション」や「カーソリューション」を提供し、人々の生活がより便利で快適になるような夢のあるサービス開発をして参ります。

今後も当社の企業理念に従い、お客様からありがたがられ、尊敬されるような会社となるために引き続き社員一丸となり更なる成長に向け努力して参りますので、一層のご支援・ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



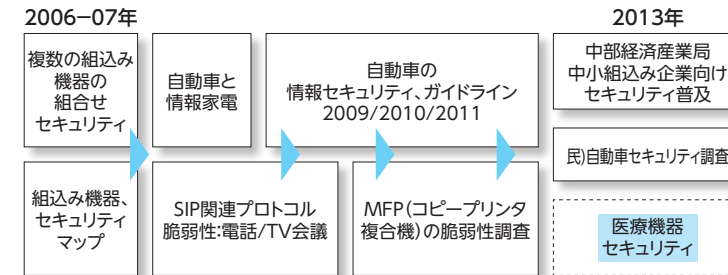
代表取締役社長 荻野 司

企業理念

「次世代ユビキタス技術の創造に挑戦」
「技術と顧客志向」

組み込みセキュリティ対策への取組みと事業化に向けて

- 2006年以降、IPA (独立行政法人 情報処理推進機構) の組み込み機器セキュリティ調査、ガイド作成を受託。
- 組み込み機器のうち、情報家電、OA機器、自動車について取組み。2013年は医療機器に着手。



組み込みシステムの脅威・脆弱性対策が注目されている中、ユビテックでは新たなセキュリティ事業の展開を始めました。多くのソフトウェア製品が、組み込みシステムで構成されている今、組み込みシステム業界では、事故や故障時でも安全を確保する機能安全（セーフティ）には対応してきましたが、これからは組み込みシステムへの脆弱性を突いた攻撃やネットワークに繋ぐことで拡大する脅威に対応するためのセキュリティ対策が求められています。

当社では、2006年より、IPA (独立行政法人 情報処理推進機構) の受託業務として組み込み機器セキュリティ調査及びガイド作成を継続的に行っており、昨年は「自動車の情報セキュリティへの取組みガイド」、「2012年度 自動車の情報セキュリティ動向に関する調査」の取りまとめに協力致しました。

これらの受託業務を通じて得た情報家電、OA機器、自動車のセキュリティについての多くの知見をもとに、昨年は、経済産業省中部経済産業局から「平成25年度情報セキュリティ対策推進事業」を受託し、10月に名古屋市、今年2月には金沢市にて行われたセキュリティセミナー開催に協力するとともに、今年4月に発表予定の中部地域中小企業向け「組み込みシステムのセキュリティ対策取組みガイド」の作成を進めております。

また、沖縄セキュリティ&テストセンターを設立した沖縄県でもモバイル機器等検証拠点形成促進事業を推進する一般社団法人IIOT主催のセミナーに当社代表取締役社長 荻野司が参加し、セキュリティ対策についての講演をさせていただきました。

これらの活動を通じ、今後もセキュリティ対策の事業化に向けての取組みをより一層積極的に進めて参ります。

進化する省エネソリューション「BE GREEN Next」

東京大学I-REF棟に「BE GREEN Next」導入、ビルのスマート化に貢献 ～東京大学より感謝状授与～

大規模な改修工事が行われた東京大学大学院情報理工学系研究科研究教育棟I-REF棟に東大グリーンICTプロジェクトのメンバーでもある当社の省エネソリューション「BE GREEN Next (BGN)」が導入されました。

I-REF棟は、BGNを活用した全館の用途別電力計測とリアルタイムの見える化及び空調と照明の管理・快適制御機能をはじめ、照明のLED化や通信線給電(PoE)による照明制御等のスマート技術が導入された最先端の「スマート・ビル」として生まれ変わり、2013年9月に行われた「新生I-REF棟記念式典」では、スマート・ビル竣工に貢献した企業として東京大学大学院情報理工学系研究科研究科長 坂井修一教授より、当社代表取締役社長 荻野司に感謝状が授与されました。

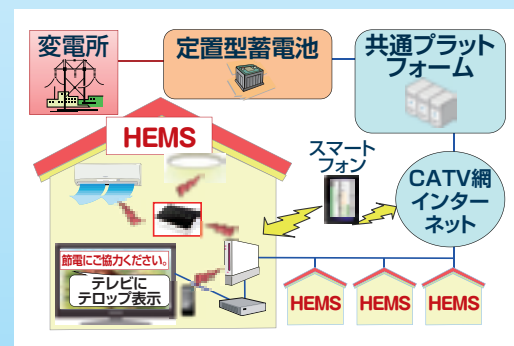
記念式典後に行われたスマート・ビルI-REF棟のデモ見学ツアーでは、当社よりBGNによる電力の用途別見える化機能やベンダーの異なる空調と照明の統合的稼働状況の見える化、自在なスイッチの組み合わせを可能にするソフトウェアスイッチのiPadによる制御、及びIEEE1888によるデータ連携機能等について来場者に披露しました。



「よなごスマートライフプロジェクト」にて「BE GREEN Next Home (HEMS)」と赤外線リモコン連携でスマホによる家電制御が可能に

米子市では「よなごスマートライフプロジェクト」と題し、環境負荷の軽減を図り持続可能な地域を創りながら、新たな生活価値を生み出していく社会を官民協働で目指しています。具体的には、ICTやビッグデータの活用により、節電支援や災害時の電力供給、健康管理、再生可能エネルギーの地産地消等、地域が抱える様々な問題を解決に導き、地域の活性化を同時に実現するものです。

この「よなごスマートライフプロジェクト」における価値創造の一環として、当社は家庭用省エネソリューション「BE GREEN Next Home (HEMS)」で協力しております。HEMSと赤外線リモコンとを連携させることにより、家の中や外出先からでも電力情報を確認できることに加え、空調や照明等の家電のリモートコントロールも行えるようになりました。また、「よなごスマートライフプロジェクト」を構築する他のクラウドサービスとの連携のためにHEMSのデータ提供も行っています。



クラウド型会議室管理サービス「ルームコンシェル」発売 ～利用状況の見える化により、効率的な会議室管理を実現～

「会議室が予約で埋まっているのに、実際は使われていない」、「会議室の効率的な運用・管理をしたい」という声に応えるべく、会議室利用状況の見える化を実現し、空予約解消、予約延長手続きも簡単に行えるクラウド型会議室管理サービス「ルームコンシェル」を発売しました。

昨年、公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会(JFMA)主催「第7回ファシリティマネジメント大賞」にて“BE GREEN Nextの機能と自社活用事例”で「技術賞」を受賞した際、「節電はもとより、会議室等の最適な設備利用を可能とする管理ツール」として高く評価いただきました。

「ルームコンシェル」は、BGNの持つファシリティマネジメント機能をさらに進化させ、Microsoft Office 365の会議室予約情報と連携して、会議室利用の効率化や利便性を高めるサービスです。人感センサーにより、予約済みにもかかわらず使われていない会議室の状況を判断して空予約を排除し、利用中に会議を延長したい場合には会議室に設置されたタブレット端末より簡単に予約延長することができます。さらに、利用実績を集計し、見える化することで管理者が適正な会議室運用を検討・実施することができます。

クラウド型の為、設置工事も必要なく、BGNと連携させれば、会議予約時間前の自動空調ONや、空調・照明の消し忘れを防ぐことができ、ワークスタイルに合わせた省エネ化と新たな業務効率向上が望めます。

また、「ルームコンシェル」は今後クラウド型ビデオ会議サービス「CanSee」Powered by Vidyoや様々なグループウェアとの連携も進めていく予定です。

ルームコンシェルの特長

- 未使用時の自動予約キャンセル機能
- 予約時間延長機能
- 利用実績レポート機能



当第2四半期の業績について

当第2四半期の営業概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済対策や日銀の金融緩和策を背景に円高の是正や株価上昇が進む等、緩やかな景気回復の兆しが見られたものの、实体经济の改善には至っておらず、中国をはじめとする新興国における経済成長率の鈍化や消費税率引き上げに伴う消費低迷の懸念等により、依然として景気の先行きは不透明な状況が続いております。当社グループの関連市場においても、円安進行に伴い一部で企業収益の回復が見られたものの、本格的な回復にはいたらず、設備投資抑制は続き、価格低下圧力が強まる等、引き続き厳しい事業環境となりました。

このような状況の中で、当社の既存事業も厳しい結果となりましたが、引き続きグループ全体によるローコストオペレーション体制を維持しつつ、顧客先企業の影響を受けにくい自社製品・サービスの開発に注力してきました。特にカーソリューション事業の車載システムについては、これまでに培った技術を用いた新しい簡易型の車両運行管理・ドライバー支援サービス「Be Safe」シリーズを開発し、安全・エコ・コンプライアンス強化を実現する製品として、当社の将来的な基幹事業にすべく、代理店や顧客との連携をより強化し、満足度の向上と機能強化のために更なる先行開発投資及び販路拡大に注力して参りました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は1,433百万円（前年同四半期比7.2%増加）、営業損失は82百万円（前年同四半期は営業損失83百万円）、経常損失は86百万円（前年同四半期は経常損失43百万円）、四半期純損失は64百万円（前年同四半期は四半期純損失32百万円）となりました。

セグメント別の概況

電子機器事業は、紙幣鑑別ユニット等のATM向けセンシングモジュールが堅調に推移したことに加え、当第1四半期より

リエクシング社製カラオケ端末「JOYSOUND FESTA」の量産開始により、前年同四半期比増収増益となりました。カーソリューション事業については、オリックス自動車との取引が前年同四半期比で減少したものの、今後は新サービスの「Be Safe」シリーズ拡販にも注力していきます。また、コスト削減については業務全体を見直しながら関係協力会社にもご協力頂き、仕入コストや外部委託費用についての削減を継続して進めております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は915百万円（前年同四半期比13.2%増加）、セグメント利益は95百万円（前年同四半期比14.1%増加）となりました。

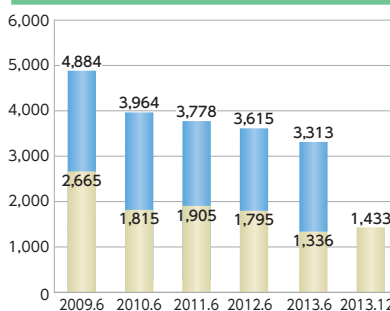
モバイル・コピキタス事業については、子会社や携帯電話評価業務の売上が減少したこと等により、前年同四半期比減収減益となりました。携帯電話評価業務については、携帯電話に限らず多様な情報機器からWebサービスまで評価・検証するサービスを新たに展開し、また、沖縄セキュリティ&テストセンターの設立によりAndroidを実装した端末・アプリケーションにおけるユーザビリティ評価や脆弱性検証のサービスも開始しており事業拡大を目指してまいります。

さらに、クラウド型ビデオ会議サービス「CanSee」Powered by Vidyo及び、省エネソリューションBGNとマイクロソフト社のOffice365との連携を図ったクラウド型会議室管理サービス「ルームコンシェル」についても営業を開始しており、売上獲得に向けて拡販を進めつつ会議室管理ソリューションとして両者の連携も図ってまいります。

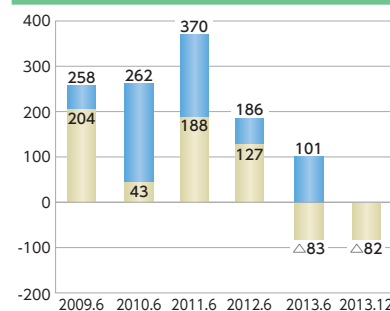
今後も新規顧客の開拓に注力しつつ、引き続き新製品・新サービスの開発を進めて参ります。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は517百万円（前年同四半期比2.0%減少）、セグメント損失は26百万円（前年同四半期はセグメント損失16百万円）となりました。

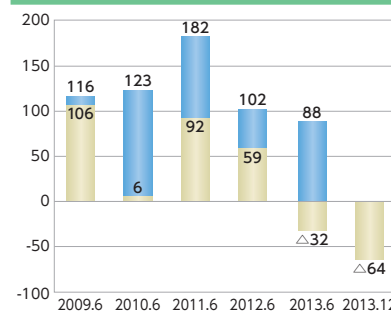
売上高 □ 通期 ■ 第2四半期 (百万円)



営業利益 □ 通期 ■ 第2四半期 (百万円)



四半期(当期)純利益 □ 通期 ■ 第2四半期 (百万円)



第2四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2013年6月30日)	当第2四半期連結会計期末 (2013年12月31日)
資産の部		
流動資産	4,024,954	3,602,308
現金及び預金	2,494,041	2,493,514
受取手形及び売掛金	1,388,756	798,544
たな卸資産	61,721	173,174
その他	80,435	137,075
固定資産	216,505	205,407
有形固定資産	77,371	65,795
無形固定資産	13,867	15,058
投資その他の資産	125,266	124,553
資産合計	4,241,460	3,807,716

第2四半期連結損益計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (2012年7月1日から 2012年12月31日まで)	当第2四半期連結累計期間 (2013年7月1日から 2013年12月31日まで)
売上高	1,336,925	1,433,262
売上原価	1,125,845	1,235,746
売上総利益	211,079	197,515
販売費及び一般管理費	294,485	279,645
営業利益	△83,405	△82,129
営業外収益	40,639	1,385
営業外費用	877	5,731
経常利益	△43,643	△86,475
特別利益	—	—
特別損失	1,469	9,031
税金等調整前四半期純利益	△45,113	△95,506
法人税、住民税及び事業税	8,259	1,534
法人税等調整額	△22,270	△33,343
少数株主損益調整前四半期純利益	△31,101	△63,697
少数株主利益	1,028	432
四半期純利益	△32,130	△64,130

負債の部

	前連結会計年度 (2013年6月30日)	当第2四半期連結会計期末 (2013年12月31日)
流動負債	735,980	398,252
固定負債	47,850	52,351
負債合計	783,830	450,603
純資産の部		
株主資本	3,401,644	3,292,520
資本金	882,323	887,496
資本剰余金	596,225	601,398
利益剰余金	1,998,570	1,864,345
自己株式	△75,474	△60,720
その他の包括利益累計額	△11,566	△9,924
新株予約権	45,556	52,075
少数株主持分	21,994	22,440
純資産合計	3,457,629	3,357,112
負債純資産合計	4,241,460	3,807,716

第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (2012年7月1日から 2012年12月31日まで)	当第2四半期連結累計期間 (2013年7月1日から 2013年12月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△127,517	49,923
投資活動によるキャッシュ・フロー	10,460	193,509
財務活動によるキャッシュ・フロー	△42,355	△45,133
現金及び現金同等物に係る換算差額	18,909	173
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△140,502	198,472
現金及び現金同等物の期首残高	1,434,692	742,041
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,294,189	940,514

■ 会社概要

商号

株式会社ユビテック
Ubiteq, INC.

設立

1977年(昭和52年)11月17日

所在地

〒141-0031
東京都品川区西五反田一丁目18番9号
五反田NTビル

資本金

887,496,458円

金融商品取引所

東京証券取引所(ジャスダック)

会計監査人

有限責任 あずさ監査法人

証券コード

6662

従業員数

122名(連結)

■ 役員

代表取締役社長	荻野 司
常務取締役	明石 直人
取締役	白木 道人
取締役	野方 孝之
取締役	徳田 英幸 ※1
取締役	江崎 浩 ※1
取締役	小島 一雄 ※1
取締役	錦織 雄一 ※1
取締役	林 雅弘
常勤監査役	平田 満
監査役	小林 稔忠 ※2
監査役	与謝野 肇 ※2
監査役	高橋 通 ※2

※1 徳田 英幸氏、江崎 浩氏、小島 一雄氏、錦織 雄一氏は会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
※2 小林 稔忠氏、与謝野 肇氏、高橋 通氏は会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

■ 株式情報

発行可能株式総数.....520,000株
発行済株式総数.....145,172株
株主数.....2,524名

■ 大株主の状況

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
オリックス株式会社	85,272	58.74
パナソニック株式会社	14,400	9.92
荻野 司	3,449	2.38
株式会社SBI証券	2,553	1.76
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	1,727	1.19
土屋 延寿	1,520	1.05
後和 信英	1,302	0.90
小島 祥吾	1,249	0.86
糸谷 輝夫	814	0.56
松井証券株式会社	743	0.51

■ 株主メモ

事業年度 毎年7月1日～翌年6月30日
 期末配当金受領株主確定日 毎年6月30日
 中間配当金受領株主確定日 毎年12月31日
 定時株主総会 毎年9月下旬
 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
 公告の方法 電子公告により行う
 公告掲載URL <http://www.ubiteq.co.jp/>
 (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

IR活動の取組み

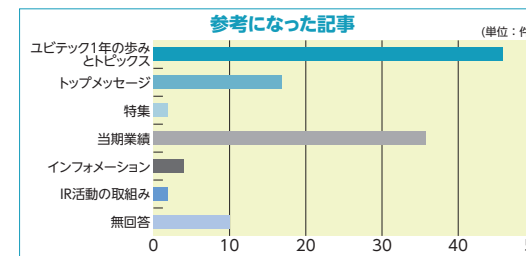
株主アンケートについて

第37期ビジネスレポート(2013年9月発送)に同封させていただきました株主アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございます。

温かい励ましのお言葉から厳しいお言葉まで皆様からいただきましたご意見を真摯に受け止め、これからも社員一丸となり、頑張っております。

今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

戴いたご意見の中から一部をご紹介します。



株主の声

- 株価対策をしていただきたいです。(50代男性)
- 事業拡大に期待しています。(60代女性)
- 株主説明会で社長の弁「IRが足りない」と言っていたが、PRできることはどんどんすべき。かつ良い技術でも良い営業力がなければ成長しない。キャッシュが多いなんて言っている場合ではない。(50代男性)
- モバイル・ユビキタス事業の成長、配当金アップを願う。(70代男性)
- 社名が好きだ。事業内容も好きだ。期待している。(60代男性)
- 業績向上にもっと力を入れて下さい。(70代男性)
- ユビキタス技術を磨き業績が年々向上すると思えば投資した。今は期待通りになっていないので一層の努力をお願いします。(70代男性)
- 技術で社会に貢献する会社を目指して下さい。安全なモータリゼーションの未来を楽しみにしています。(60代男性)
- 省エネ大賞を受賞するほどの製品が市場に受け入れられないのは何故か。顧客とのニーズギャップを早急に埋めるべし。(60代男性)
- 営業成績に結びつかない。結果を検討いただきたい。(60代男性)
- まずは、売上高の減少に歯止めをかけて欲しい。(40代男性)

● ホームページのご案内 ●

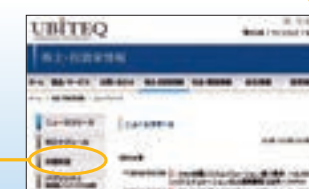
当社ホームページでは、最新のニュースやIR情報など当社をご理解いただくためのさまざまな情報を提供いたしております。

<http://www.ubiteq.co.jp/index.html>

決算短信、決算説明会資料、有価証券報告書、ビジネスレポート等を掲載しています。



株主および投資家の皆様に向けた内容をご覧いただけます。



決算説明会の動画はこちらよりご覧いただけます。

